

実母に言いたい

悩めるあなた、丸ごと受け止めます！

志茂田景樹の連載第19回

あたためるコトバ

Twitterでの人生相談が大反響の志茂田景樹先生が、読者のお悩みに答えます！

Profile 1940年静岡県生まれ。さまざまな職業を経て76年に小説家デビュー、'80年に直木賞受賞。執筆の傍ら、テレビでも活躍。不登校児の支援など、社会的活動にも携わっている。

感情的で子供っぽい母にがっかり

Y・Sさん (37歳)

母はとても感情的。少し批判すれば「どうせ私が悪いんでしょ!」と孫の前でも泣き叫びます。こちらは嵐が過ぎるまで待つのみ。泣くだけ泣けばケロリとしますが、正直辛いです。なぜこんなに子供なのでしょう。頼りにも支えにもならない母親なんて、と思ってしまいます。

実家のご家族に 援護射撃を頼もう

娘の気持ちなどお構いなしの、困ったお母さんですね。このタイ

キツくて押しつけがましい 母に「NO」と言えません

T・Oさん (44歳)

昔も今も、弟には甘くて私には厳しい母。私はそんな母の顔色をうかがってばかりです。意見を押しつけられても、留守中に我が家を勝手に掃除されても、母の日の贈り物をバカにされても我慢、我慢。でも本当は辛くて……。

あなた自身の成長の チャンスと捉えよう!

嵐が過ぎるまで待つ、という対応は大正解。お母さんのようなタイプの人、その場の激情が過ぎれば、後をひきませんから。

あとは、あなたの「お母さん、大人になってよ」という気持ちをリセットすることが大事。不可能を望むのは、辛いですよ。

方法は2つあります。ひとつは、ネチネチタイプや

プの人は、抗議しても「何がいけないの!」と聞き直りそう。でも、打つ手ナシではありませんよ。第三者の力を借りればいいのです。例えばお父さまに、やりわり「あの子は傷ついているよ」と言ってもらっては。弟さんならさらに効果的です。大好きな息子にビシッと「その態度はないよ」と言われたら、さすがに反省するはずですよ。

こうして援護射撃をもらった後に、できたらあなたもひとこと本音を出せるといいですね。「そういう言い方、やめてほしい」とポツリと言っただけでも、心がぎつと軽くなりますから。

孫の教育に熱心な 母が重すぎる!

Y・Kさん (31歳)

バツイチ子持ちで実家に戻って3年、母の過干渉が悩みです。5歳の娘に掛け算や漢字を教え込み、私の子育てにもこまごまダメ出し。一度別居を申し出るも「孫と引き離すなら縁を切る!」と言われて断念。毎日、息苦しいです。

実はあなたの方が有利。 上手な駆け引きを覚えて

あなたには強力な切り札があるじゃないですか。そう、あなたの

娘さんです。孫と離れて辛いのは、お母さんのほうでしょう? とは言っても「干渉するなら娘を連れて出ていく!」なんて露骨な脅迫はNG。口に出さず、雰囲気だけチラつかせて。おすすめは「プチ家出」。頭に来た時、黙って娘さんと二人で出かけ、おいしいものでも食べるのです。メールや電話も無視して数時間経過したら後「ごめん、携帯の電源切れてた。出かけるって言ってなかったっけ?」と笑顔で帰宅しましょう。

お母さんは、笑顔の裏のメッセーに必ず気づきます。こうしてヒヤリとさせたら、過干渉にも少しはブレーキがかかりますよ。

カゲキ先生に相談したい お悩みはこちらへ!

①氏名②掲載希望名③年齢④住所⑤電話番号⑥メールアドレス⑦お悩みの内容を記載のうえ、下記の宛先までメールまたは郵便でお寄せください(電話またはメールで、お悩みに関する質問をさせていただくことがあります)。掲載された方には図書カード¥2,000分をプレゼントします。

【宛先】●メール kageki@karakoto.com ●郵便 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-44-2 神田TNKビル5F からだにいいこと編集部 「あたためるコトバ」係



今月の

KAGEKI FASHION

熊本の保育園にて、読み聞かせ中のカゲキ先生。カラフルでミステリアス、まるでおとぎの国の語り部のよう。

